

■注目される日米の中央銀行会合

日経平均株価は12日、およそ2カ月ぶりに心理的節目となる40,000円を一時上回りました。ただ、その後は日米の金融政策に対する警戒感から下落が続いています。

米金融政策を巡っては、17～18日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)において、3会合連続となる0.25%の利下げがほぼ確実視されています。

市場の注目を集めているのは、FOMC参加者による政策金利の見通しです。前回見通しが公表された9月のFOMCでは、2025年通年で計4回の利下げが示唆されていました。他方、米金利先物市場から算出される金利予想を見ると、2025年12月末時点の政策金利は3.831%と、来年の利下げ回数は2回程度に留まるとの見方が足元強まっています(図表①)。

一方、18～19日に開催される日銀の金融政策決定会合では、0.25%の追加利上げが見送られると思われます。日銀の植田総裁が追加利上げに前向きな姿勢を示したとの報道を背景に、12月会合での利上げ確率は一時7割程度まで上昇しましたが、先週以降利上げ見送りの可能性が報じられたことから、足元の利上げ確率は16%まで低下しています(図表②)。

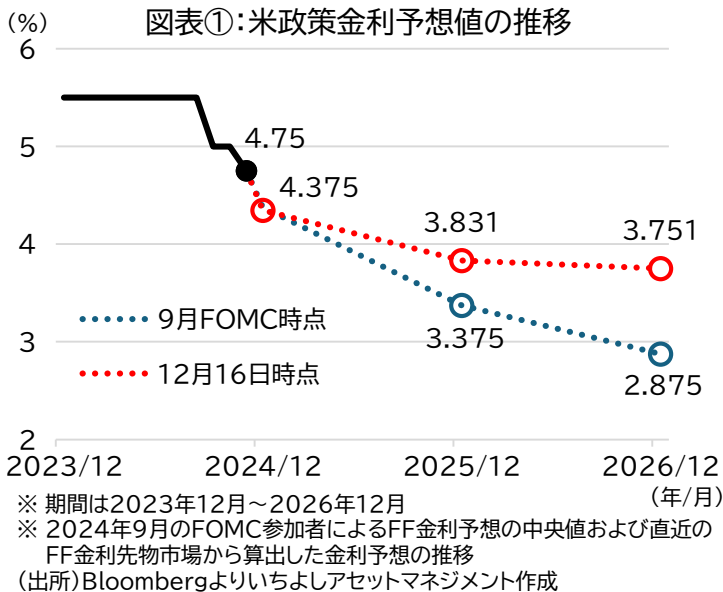
市場の織り込み通りにFOMCにて利下げが決定され、また、日銀の会合で追加利上げが見送られれば、年末株高への期待が高まるものと思われます。

■小型グロース株市場に資金流入

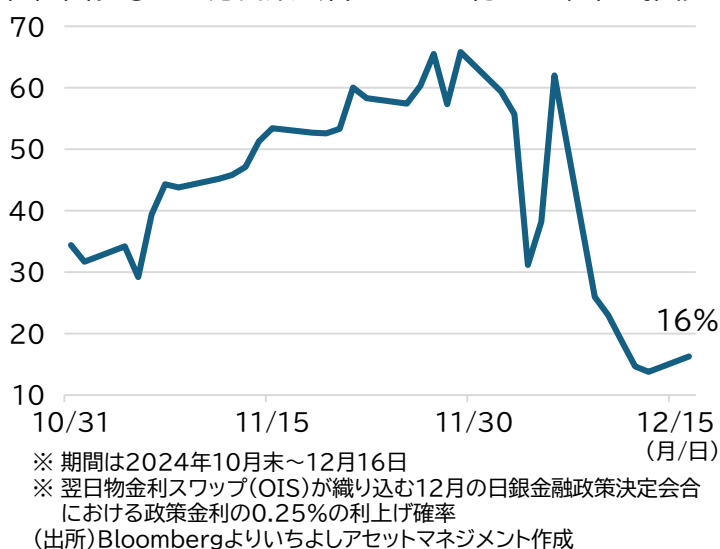
上値の重い展開が続く日本株相場ですが、海外マネーの流入が続く小型グロース株には反発の兆しが見られます(図表③)。東証グロース市場の売買動向を見ると、海外投資家は直近12月第1週(12月2～6日)まで6週連続で買い越しており、また、11月月間の買い越し額は2022年4月の市場再編以降で最大となりました。

小型グロース株には内需関連銘柄が多く、足元の過度な円安是正に伴う業績へのメリットが意識されたものと思われます。海外投資家の買い越しが今後も続くか、注目が集まります。

図表①:米政策金利予想値の推移



図表②:12月日銀会合における利上げ確率の推移



図表③:グロース市場における海外投資家の売買動向と東証グロース市場指数の推移

